2009.夏学期 古典日本語(斎藤) テスト対策

《往来物》

・往復書簡文集の形式で、読み書きの初歩を学ぶ。(社会知識・実用知識中心)＊現場主義

・庭訓往来「はるのはじめの おんよろこび きはうにむかい まづいはひまうしさうらひて

 おはんぬ ふうきまんふく なをもつて こうじんこうじん そもそも

 としのはじめの てうはいは さくじつのぐわんさんの ついでをもつて

 いそぎまうすべきのところ ひとびとねのひのあそびに かけもよふさるの

 あひだ おそれながら えんいんす うぐひす のきのはなをわすれ

 そののこてふのあそびぶに にたり」

・庭訓往来注…漢字文による。言葉の世界を広げる。

・庭訓往来抄…漢字混じりカタカナ文

・明衡往来…往来物のはじめといわれる。

・近代以前の手紙…公開文書

《読み書きの担い手》

・平安：貴族中心

・中世：僧侶中心／仏典・学問注釈が多い

・近世・武家領地を治める必要性(行政)

《文字について》

＊文字…形を言語として読み取ったもの→文字と音声は繋がっていない

かな…初学入門＝話し言葉を文字に落とす

 準識字層／庭訓往来

 \*会話の世界を書く世界に近付ける(＝文字化)

カナ…漢文の補助(一種の発音記号)

 学問志向／実語教

 \*文字世界を話す世界に近付ける(＝音声化)

＊和文のかな…和歌なしにはありえない。

 漢字世界を経由している。

和文・擬古文／蒙求

・もとは多様であったが、鋳造文字の影響で文体が決まるようになった。

《初学》

・実語教…漢詩流の五言対句。

 人間の本質・価値を「知」に置き、その夢幻的価値を強調し、「知」の体得の為には幼童からの読書勉励と、実践的道徳とが必要であることを強調。

・蒙求…幼童の教科書として編纂された書。

 中国の上代～南北朝までの古人の有名な逸話を四字句の韻語で記す。

《近世》

・原文に戻すということを重視→音読漢語の多用・翻訳法の定型化

《日本外史》

・作者…頼山陽

・武家の歴史：士族の自己意識形成→尊王思想発生

《夏目漱石》

・通った世界：普通教育(ex.作文「正成論」→漢詩文→英語→小説→(修禅寺大患)→漢詩)

・木屑録：回覧雑誌の延長(私的、遊戯的)

・思想の基礎…：公(立志：左国史漢 ＋ 私(隠遁：陶淵明)

・英語を文明(普遍的)、漢文を文化(場所による固有の精神の発露)とみなす。